

「1XY」番号に関する運用の一部見直しについての提案

IP時代における電気通信番号の在り方に関する研究会
ワーキンググループ(第2回会合)資料

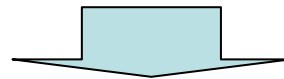
平成17年4月19日
日本テレコム株式会社

1. 第1回WG(2005年1月20日)での当社提案

「116」(営業・料金案内)に関する課題

- 自網内で営業・料金案内「116」を利用する場合の番号付与(ダイヤリング手順)について、公平性は確保されているが、各社自網内のみでの接続であるため、ユーザが「116」で接続できるのは加入している事業者のみであり、自社営業・料金案内へのダイヤリング桁数(3桁)と他社営業・料金案内へのダイヤリング桁数(6桁～10桁)においてユーザの利便性が大きく異なる
- 固定電話市場において99%がNTT東西殿がシェアを確保している現状では、大多数の電話加入者が「116」で接続される窓口はNTT東西殿であり、実質的な公平競争条件が整っていないとは言えない

各社のユーザが自社の営業・料金案内への接続と同様のダイヤリング手順で他社の営業・料金案内に接続できる仕組みを検討すべき



前回の提案

NTT東西殿以外の事業者に対して営業・料金案内サービス提供のために新たな「1XY」番号を付与し、他事業者から当該事業者に着信できるようにする

For Your Networking Universe

2. 当社提案の課題

「1XY」番号の現状 <平成10年度番研報告書 「1XY」番号の新たな利用指針より>

分類	個数	用途
A分類	13	優先度が高いもの
B分類	40	優先度がA分類に準ずるもの
保留	47	将来のための保留
合計	100	

課題

- 現在事業者へ割当可能な「1XY」番号数は保留中の47個であり、(希望する事業者数が多い場合)全事業者への割当は不可能である。
- 一方、保留となっている47個の「1XY」番号については平成10年以降新たに利用されていない。ユーザにとって利用しやすい番号をあえて保留させておく必要はないことからある程度の「1XY」番号数は開放すべきである。

課題1:どの程度の「1XY」番号数を将来に向けて保留するか

課題2:希望する事業者への割当方法

For Your Networking Universe

3. 課題と対応

➤ **どの程度の「1XY」番号数を将来に向けて保留するか**

保留中の47個の「1XY」番号について現時点で明確な使用用途がないとすれば、例えば当面10番号を開放するということも可能ではないか。

➤ **希望する事業者への割当方法**

一定の募集期間を設定した上で、

案1: 比較審査

案2: オークション

により公平な観点からオープンに事業者を選択

但し、案2は日本においてはなじみ難いものと思われる。

もし、比較審査やオークションが番号付与について相応しくないとのことならば個別申請・個別審査の上、付与の可否について判断

事業者各社から、「1XY」番号利用希望をアンケート的にとり、事前調査するのがよいのではないか

For Your Networking Universe